

(対象事業： 地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：盛岡市博物館ガイドマップ作成事業

事業者名：盛岡市博物館ガイドマップ作成実行
委員会

連携事業館名：盛岡市先人記念館、岩手県立
博物館等盛岡市内13館

住所：(委員会事務局)

盛岡市本宮字蛇屋敷2-2

TEL：019-659-3338

FAX：019-659-3387

HPアドレス：[http://www2.city.morioka.iwate.jp/](http://www2.city.morioka.iwate.jp/14kyouiku/senjin/senjin/index.html)

[14kyouiku/senjin/senjin/index.html](http://www2.city.morioka.iwate.jp/14kyouiku/senjin/senjin/index.html)

① 施設概要

実行委員 岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、盛岡市子ども科学館、盛岡市原
敬記念館、盛岡市遺跡の学び館の各館長
監 事 盛岡市都南歴史民俗資料館、盛岡てがみ館の各館長
編集委員 上記7館の学芸員等及び連携館学芸員等

② 事業の意図目的

進展する盛岡市中央公園エリアには、既博物館施設が4館あり、平成16年6月には「遺跡の学び館」がオープンし、一度に多彩なジャンルの博物館が楽しめるエリアとして市民の関心と期待が高まっている。

この恵まれた環境を生かし、小学校高学年を対象に博物館、美術館に興味を持たせ、自らが直接、施設に行きたくなるようなガイドマップ(市内一円も含める。)を作成し、文化芸術とのふれあいの場として、より一層の利用活用を図る。さらには、市民・地域の文化の向上に資することを目的とする

③ 事業概要

「?をさがせ! もりおかミュージアムガイド」

A5版 48ページ フルカラー 18,000部の作成

盛岡市内小学校40校の4年生～6年生(8,500名)に配布
次年度以降、新4年生に配布。

④ 事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他(ガイドブック)
作成した報告書等

ビデオ ()
冊子 ()
その他 ()

⑤ 参加者状況

参加者人数 延べ 34人 (ガイドブック作成関係者)

内 訳 館長級7名 学芸員等 27名

(1) 事業の実施状況について

文化は元気のもと！

「知る・楽しむ・体験 未来を担う子どもたちの夢を育む」をスローガンに、小学生向け博物館ガイドブックの作成に取り組んだ。

当初は、盛岡市中央公園及びその周辺にある岩手県立博物館、盛岡市原敬記念館など5館を中心に市内7館の館長を実行委員とし、各館の学芸員等からなる編集委員会を内部組織として取組みを開始した。

編集委員会議を重ねていく途中から、協力館の学芸員も編集委員会議に加わり、より連携の取れた内容となるよう努めた。

一応の形ができた状態で、小学校教員の特に国語、社会、理科等の専門者からアドバイスを受け、修正を加え、真の小学校高学年向けガイドブックの内容となるよう努めた。

作成後の各児童への配布にあたっては、事前に校長会議での説明を経て、各担任には配布説明書を配り、各児童が博物館ガイドブックへの十分理解を深めるように配慮した。

今秋には、児童、教員、保護者からアンケート等で各種意見等を集約し、次年度の配布方法、各博物館の児童への対応だけではなく、博物館の運営により役立てたい。

(2) 地域との連携について

当初実行委員会 組織館	岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、盛岡市子ども科学館 盛岡市原敬記念館、盛岡市遺跡の学び館、盛岡てがみ館 盛岡市都南歴史民俗資料館
----------------	---

作成連携館	岩手県立博物館、岩山漆芸美術館、深沢紅子野の花美術館 もりおか啄木・賢治青春館、盛岡市中央公民館、 盛岡市動物公園	以上 13 館
-------	---	---------

このガイドブックの作成配布により、小学校と各博物館の連携が図られ、体験学習や遠足・長期休業期間の自主学習などに大きな効果があると期待され、また、小学生のいる家庭を中心に、市民一般の方が中央公園のミュージアムゾーンを訪れ、ゆったりとした開放感のなかでの生涯学習の場の提供が図られるものと期待している。

(3) 成果物について

「?をさがせ! もりおかミュージアムガイド」の特徴

- ・一般的な各博物館の紹介情報を単に一覧化したガイド版ではなく、子どもたちが博物館に興味をもち、利用・活用してもらえる内容とした。
- ・冒頭から前書き抜きでいきなり【博物館ってなあに】部分、6ページをさいて、博物館そのものをまず、アピールし、知ってもらうようにした。
- ・【クロスワードクイズ】【スタンプラリー】は13館すべての館を訪れてもらい、それぞれの館の不思議や面白いところを発見してもらえるものとした。
- ・小学生高学年を対象にわかりやすい説明内容で、字も大きく、見やすいものとした。このことはユニバーサルデザインにもつながる取組みでもあると考えている。

(4) 参加者の反応

ガイドブック作成課程において、その作成に携わった各博物館の学芸員等の反応

- ・ 学芸員等は、他の類似館を除くと、ほとんど触れ合う機会の無かった他館の学芸員等と知り会えたこと。（今後の各館の運営について連携がとりやすい。）
- ・ 特に今まで小学生の入館者が少ない館においては、子どもの目線で館の展示等を洞察する機会ができたこと。このことは、小学生に限らず、あらゆる階層個々の立場にたって、館は何を求められているのか、何を提供すればよいか学習の機会となったこと。
- ・ 常に内側から見ていた展示等が外から見た他館の学芸員の評価に驚いたこと。
- ・ 動物園、美術館、人物博物館など各々が別角度から論議し、貴重な経験をしたこと。
- ・ どの館においても入館者の増を図るため苦勞をしていること。もっと頑張らなくてはと感じたこと。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

- ・ ガイドブックの共同作成により、盛岡市内博物館施設 13 館の連携が深まり、今後の共同事業の開催基盤形成できたこと。
- ・ 特に、中央公園の盛岡ミュージアムゾーンでの市民、博物館の協働による各博物館の特別企画展が中核の「博物館まつり」開催基盤ができたこと。
- ・ 各博物館学芸員等の向学心と意欲向上が図られたこと。

(今後、効果が期待できるもの)

- ・ ガイドブックの作成配布により、小学校と各博物館の連携が図られ、体験学習や遠足・長期休業期間の自主学習などに大きな効果があると期待される。
- ・ 小学生のいる家庭を中心に、市民一般の方がミュージアムゾーンを訪れ、ゆったりとした開放感のなかでの生涯学習の場の提供が図られる。